

あいづわかまつ 文化財だより

発行
会津若松市教育委員会
編集
会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第24号
平成29年3月1日
(2017)

融通寺梵鐘が新たな市有形文化財に指定される

会津若松市教育委員会では、平成28年6月23日付けで、融通寺所有(大町二丁目)の「自然山融通寺梵鐘」を会津若松市指定有形文化財(工芸品)に指定しました。



普段はこの鐘樓に吊されています。

江戸時代には寺院の多くに梵鐘が存在していましたが、戊辰戦争や第二次世界大戦により失われ、現在残るものは数少なくなっています。この融通寺梵鐘は、総高109cm・撞座中心高18cm・口径64cmのもので、正保5年(一六四七)に会津を代表する鑄物師である早山(そうやま)直次と早山恒吉により鑄造されたものです。第二次世界大戦中の金属供出に際して一旦は国に献納されましたが、初代藩主の保科正之公から寄進された由緒から寺に返されたもので、市内に残されている梵鐘では最も古いものであり、寄進者、鑄造年、鑄造者を知ることが出来る貴重なものです。



近くで見ると、とても迫力があります。

会津若松市指定文化財は、昭和33年11月の第1号以来、現在では116件を数えます。その内訳は、建造物7件、美術・工芸品49件、書跡・典籍・古文書9件、歴史・考古資料

19件、史跡・名勝・天然記念物25件、民俗資料3件、無形民俗文化財4件となります。



融通寺住職の 矢花信城さんの話

今回、梵鐘を所有しておられる融通寺の矢花住職からお話をいただきました。この鐘は保科正之公にかかわるもので、現在は3月11日と大晦日に除夜の鐘として年2回撞いています。第二次世界大戦の際には、多くのものが供出され、さらに海外に売られたものも多いため、そのなかで多くの方の努力により残されたものであると、大切に保存していきたいと考えています。

文化財の保護

城前団地の発掘調査

城前団地の建て替えに伴い、7月から9月にかけて、工事で消滅する範囲約900㎡の発掘調査を行いました。今回の調査区を含む周辺は、蒲生氏郷による城下町の整備が行われた天正18年以降幕末までは武家屋敷となっていました。

明治41年から昭和20年までの37年間は、若松連隊の兵舎敷地や練兵場となりました。まず江戸時代の遺構ですが、幕末の城下を描いた絵図によれば、調査区は岩田市右衛門(一〇〇石)の屋敷の一部に該当します。

武家屋敷の跡に関する遺構は、一列に並んだ柱の穴や井戸跡、池の跡などが見つかっています。



江戸時代に使われていた石組み井戸です

このレンガについて、当時の地図や航空写真、そして、現存する類似の軍隊施設の調査事例と照合した結果、この基礎は弾薬庫(火薬や銃弾を



レンガを何層も積み上げた頑丈な基礎です

遺物は、当時日常生活で使用されていた食器などがほとんどでした。この他に、珍しい遺物として、調査区の南側の大きな溝跡から蒲生時代のものと思われる、お城に葺かれていた金箔瓦も見つかりました。おそらく、江戸時代に城から屋敷に持ち込まれたと考えられます。

次に今回の調査区は、大正時代の配置図や昭和21年撮影の航空写真から、兵舎敷地の北東隅に該当します。発掘調査により、レンガ造りの基礎が見つかりました。

文化財パトロール

会津若松市では、13名の方に文化財パトロール員をお願いしています。市内に数多くある文化財の破損の有無や、いたずらがないかなどについて、年間500件ほど見回りを行い、文化財の良好な状態での保存と管理に努めています。今回、パトロールに従事されている小柳孝男さんにお話を伺いました。

「私は、今年度より文化財パトロール員として、活動しています。城跡や古い建物が好きで、このパトロールを引き受けました。市内7か所のパトロールを担当していますが、会津若松市には、他にもたくさんの史跡があります。このような、史跡どうしの関係・年代・成り立ちなどを考えると、当時の暮らしが想像でき、楽しくなります。出会いもありました。甲賀町口郭門のパトロールにいった時ですが、早朝にもかかわらず清掃活動をしている方々に出会いました。話を伺うと、町内会で毎月、日にちを決めて清掃活動をしているそうです。

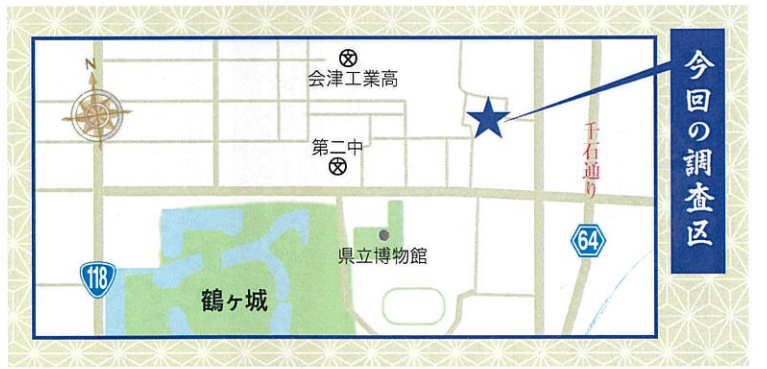


その他の文化財も同じです。パトロール員だけでは何もできませんが、このような方々のお陰で、文化財も大事に守られています。私も、文化財保護のため、出来るだけパトロール員を続けていきたいと思っています。」



レンガ造りの弾薬庫の基礎が現れました

しまっておくところ)の基礎であることが判明しました。レンガ基礎の周りには土管で造った排水溝の跡も見つかり、当時の弾薬庫の様子を知る貴重な手がかりとなりました。



今回の調査区

◆文化課に遺跡の有無を確認してください
市内には多くの遺跡があり、その数は五〇〇箇所以上のぼりです。遺跡は、地中に眠っているため、工事等により掘削する時に、遺跡を壊してしまう恐れがあります。そのため、開発を行なう際には、開発地が遺跡に該当するのかが事前に照会してください。

その結果、開発地が遺跡に該当している場合は、事前協議が必要で、工事着手60日前までの届出が必要になります。

文化財を甦らせる

御薬園

●御茶屋御殿の工事

江戸時代に建設された茅葺屋根の建物について、東日本大震災で破損した壁や、経年劣化で傷んだ柱の修復、茅葺屋根の葺替えなどを行っています。

建築当初の状況や、過去に修復された痕跡などを確認・記録しながら慎重に工事を進めており、今年の12月に終了する予定です。

貴重な文化財を後世に伝えるために必要な工事ですので、御薬園をご利用されるみなさまには、大変ご不便をおかけしますが、ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、重陽閣の各部屋はご利用できませんので、直接御薬園にお申込みください。



元禄9年(1696)に建てられたといわれる御茶屋御殿



担当者の説明に耳を傾ける見学者

便をおかけしますが、ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、重陽閣の各部屋はご利用できませんので、直接御薬園にお申込みください。

●明治期建物の特別公開

明治時代に増築された二階建て建物の修復終了を記念し、昨年の8月と9月の延べ10日間、普段は非公開の松平容保公が使用された二階部分を特別に公開しました。

県内外から多数の参加者があり、「会津にとって観光の新たな資源が加わったと思う」「貴重な体験をした」

「容保公になったような気分になることができました」という感想をいただきました。

旧滝沢本陣修復工事

●国指定重要文化財である

「旧滝沢本陣横山家住宅」は、江戸時代には滝沢組十村の郷頭の屋敷で、参勤交代や領内巡視などの際、藩主の休息所にもなりました。

戊辰戦争では、松平容保公が、ここで白虎隊士に出陣命令を下したと言われて

茅葺屋根は、平成12年に大規模な葺替えを行って以降、差し茅をしながら保存してきましたが、経年による劣化が進んだため、葺替え工事を実施しました。



修復事業に伴い実施した幕末体験イベント

滝沢本陣は、幕末の会津の歴史を直に感じることができる建物です。これからも、所有者とともに、保存に努めてまいります。

旧中畑陣屋修復工事

●会津武家屋敷にある福島

県指定文化財「旧中畑陣屋主屋」の茅葺屋根の修復工事を行いました。

中畑陣屋はもともと、西白河郡矢吹町中畑を領していた旗本松平家の代官陣屋として建築されたもので、昭和50年に現在地に移築復元されました。

明治時代に入ると、各地にあった多くの代官陣屋は破却されたことから、往時の姿を今に伝える陣屋は全国的にも貴重な建築物です。



工事関連の写真等の他、貴重な文書も展示しました



職員の説明に耳を傾ける来館者

お知らせ

●出前講座のご案内

文化課では、生涯学習総合センターを通じて、職員が講師として市民の皆様が発掘調査の成果をはじめ、会津の歴史講座を行っておりますので、お気軽にご相談ください。

ただし、希望するテーマや内容によっては対応できない場合もございますので、事前にご相談下さい。

申し込み・お問い合わせは：
●生涯学習総合センター
☎22147000(又は文化課まで)

●文化財関係ホームページのお知らせ

文化課では市のホームページ上に各種行事の案内や文化財に関する疑問、指定文化財一覧などを掲載しています。

この他にも埋蔵文化財がある場所での開発行為手続きの流れや申請書類のひな型、記入方法も掲載しており、これらはダウンロードが可能です。

場所が分からない場合
HP↓分野別「教育文化」↓文化↓文化財↓各項目を選択(なお、レイアウトが変更される場合もあります)

なお、行事の案内は各種SNSでも公開しています。あわせてご覧ください。

文化財を積極的に活かす

●展示

まなべこでは、約半年にわたって展示する常設展と、約1〜2ヶ月程度の展示の企画展を開催しています。

常設展は年2回、テーマを設けた展示を行っており、今年度は、前半が「戊辰戦争と鶴ヶ城」、後半は「院内御廟を探る」と題した展示を本年5月末まで開催しています。

また、企画展はより身近な歴史や伝統文化などの



甲賀町口郭門跡前で説明を聞く受講者

テーマを設け、歴史の苦手な方にも会津の歴史や文化を知ることが出来る展示を行っています。3月からは約2ヶ月間の予定で只見線に関する企画展を開催しますので、是非お越しください。

●講座

まなべこでは、お城や城下町を歩く、石碑を見る、飛び出すカードを作るなど、実際に歩く、見る、作るをテーマとする実技的な講座を開催しております。



今回は飛び出す鶴ヶ城を作りました

大人だけではなく小中学生向けの講座も行ってまいりますので、ふるってご参加ください。

詳しくはホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。

院内御廟散策会

国指定史跡会津藩主松平家墓所(院内御廟)は、2代から9代までの歴代藩主と、その家族が眠る墓所で、2代藩主以外の歴代藩主は神道形式で埋葬されています。

平成13年に公有化し、教育委員会が管理や整備等を行っています。

院内御廟の歴史的価値や豊かな自然を多くの方々を知ってもらうため、毎年、快適にかつ石造物等がよく見通せる初夏の頃に、文化課職員が解説しながら一緒に院内御廟を巡る散策会を開催しています。

院内御廟に普段は案内人が常駐していないため、毎回好評を博しています。

今年度は通算8回目で、6月5日に開催しました。天候にも恵まれ、県内外から約50名の方が参加されました。

今回は、特別企画として4代藩主松平容貞(かたさだ)の碑文の解説を行いました。



見学者と比較するといかに亀趺が大きいかがわかります

参加者は亀趺や碑石の大きさに驚きながら、興味深く解説に聞き入っていました。

気軽に見学できるよう、御廟には案内板やベンチ、パンフレットボックスを設置していますので、ぜひ一度足をお運びください。

●第63回文化財防火デー

文化財防火デーは昭和24年に法隆寺金堂壁画が被災したのを契機に、文化財を火災等から守り、その大切さを伝えるために制定されました。

防火デーにあわせて実際の火災を想定した火災防ぎょ訓練を行っています。

63回目となる今回は、飯盛山にあるさざえ堂で訓練



積雪の中、迫力ある訓練が行われました

を実施しました。

今回の訓練について、所有者の飯盛正徳さんは、「飯盛山では、過去に裏山で火事が発生した際にも、消防団、消防署が協力して、消火活動を行ってくれたので、さざえ堂まで火が及ばず、大事に至らなかったことが、ある。今回の火災防ぎょ訓練のような訓練を通じて、防災意識を持ちながら、さざえ堂を後世に伝えていけるように努めたい」とおっしゃっていました。

1月29日(日)に行った訓練では、会津若松市消防団本部、第3・5・8・13分団、会津若松消防署にご協力いただきました。